基本構想(案)パブリックコメント　意見に対する市の考え方

項目 等（要約）	パブリックコメント意見 ※提出された意見は、誤字・脱字、改行、句読点等を含め、原文のまま掲載しています。ただし、個人が特定される情報や、公表に適さない情報については、一部を削除または加工しています。	意見に対する市の対応方針
No.1 村上駅周辺に駐車場を整備し、**パーク＆ライドの推進とＪＲとの連携**により、鉄道の利便性向上と公共交通の利用促進	パーク＆ライドを推進してください。 現在、村上駅前には主だった駐車場がありません。「駅前に自家用車を置いて電車で移動」というのが困難な状況です。エコロジカルな観点からも、パーク＆ライドを推進し、通勤や旅行での公共交通の利用を促進すべきだと考えます。 公共交通が不便な事もあり、どうしてもクルマ社会になってしまいがちですが、今のままでは公共交通の利用が減少傾向になり、鉄道も赤字で悪循環となります。現在も新潟市内まで電車で行こうと思えば、片道1320円もかかります。仮に今よりも利用客が減少すれば、更なる料金の値上げも有り得ます。せっかく鉄道があるのですから、JRとも協調し、より便利になるよう進めていただきたいと思います。	公共交通の利用促進に向けては、鉄道やバスなどの交通機関相互の乗り継ぎに加え、駅へのアクセス環境の充実も重要であると考えています。 第４次総合計画の基本計画（案）における「公共交通」分野では、公共交通の利便性向上と利用促進を図るため、鉄道とバスなどの乗り継ぎの改善や、持続可能な公共交通体系の構築に取り組むこととしています。 また、村上駅周辺については、「村上駅周辺まちづくりプラン（基本構想）」において、駅周辺へのアクセス性を高め、公共交通の利用を促進する取組として、パーク＆ライド駐車場の整備を位置付けています。さらに基本計画（案）の「市街地・景観」分野においても、駅東西を連絡する通路や駅東口・西口の整備について、事業実施に向けた検討を進めることとしています。 ご提案の趣旨も踏まえ、「村上駅周辺まちづくりプラン（基本構想）」に基づき、駅周辺整備と一体的に、鉄道事業者をはじめとする関係機関と連携しながら、パーク＆ライド駐車場の整備や公共交通の利用促進について検討を進め、利用しやすく持続可能な公共交通体系の構築に努めてまいります。
No.2 **ドッグランや動物と触れ合える施設の整備**、ペット同伴可能な観光施設の充実により、多世代交流や観光振興	今や子供のいる家庭よりもペットを飼っている家庭のほうが断然多いので、空いてる土地を利用してドッグランにする、空いてる建物を利用して犬と触れ合える施設やしつけ教室を開く等してもらいたいです。上越市なんかは市営の広いドッグランがあります。他の市町村を参考にしてはいかがでしょうか。 動物も一緒に入れるお土産屋、飲食店、宿を増やすよう勧めてペット連れの観光客をターゲットにしたら、観光の収入にも繋がると思います。 私も犬を飼っていますが、旅行には犬も泊まれる宿を探し、犬も一緒に行ける観光地を探して行っています。 高齢者も多いし、高齢者と動物や小さな子供も障害のある人もない人も誰もが集い触れ合える施設があれば高齢者も元気になり子供もいい経験になるのではないかと思います。	ペットとともに過ごせる環境の充実や、動物との触れ合いを通じた多世代交流は、市民の暮らしの豊かさや地域の魅力向上につながる視点の一つであると考えています。 第４次総合計画の基本計画（案）における「観光」分野では、観光客の多様なニーズに対応した受入環境の充実や、地域資源を生かした滞在型観光の推進に取り組むこととしています。 ご提案のドッグランや動物との触れ合い施設の整備、ペット同伴で利用できる観光施設の充実については、利用者のニーズや既存施設の活用、民間事業者との連携などを踏まえながら、今後の取組を検討する上での参考とさせていただきます。
No.3 基本構想案（土地利用構想）における**図の配置修正**	●意見　該当箇所　基本構想案　まちの未来構想図の右頁の図１番から４番の４枚 道の駅のリニューアル他の４枚の図は、ここに記載するよりも、「４土地利用構想」の文章と並べて記載した方が、双方を見ながらの理解がしやすいと考えます。 なお、概要版の「土地利用構想　将来の土地利用の方向性」の「価値を生み出すつながり」の文章の下に図が配置されていますが、これらの図を記載するのであれば、概要版の記載の仕方のほうが良いと考えます。 理由：これらの図の事業は、民間事業者の関係するものであり、市の実施事業だけではないので、この場所に記載せてれていると誤解しやすいと感じたので。	ご意見の図は、第４次総合計画の基本構想（案）「４．土地利用構想」に掲げる「つなぐ」ことで新たな価値を生み出す取組を、視覚的に示すために掲載しているものです。文章と図の関係が分かるよう構成していることから、図の位置は原案どおりとします。 なお、掲載している取組には、市が直接実施する事業だけでなく、国や民間事業者等が実施主体となるものも含まれています。これらは、今後の本市の土地利用や産業、交通・物流、人や地域の交流に大きな影響を与える取組です。 土地利用構想は、市が実施する事業だけを示すものではなく、将来、市域全体がどのような形になっていくのか、その方向性を示すものです。そのため、高速道路の整備や洋上風力発電、木質バイオマス発電などについても、それらの動きを本市の将来のまちづくりにどのように生かしていくかという観点から掲載しています。 ご指摘のような誤解が生じないよう、国や民間事業者等が実施主体となる取組を含む旨の注釈を追加します。 **修正箇所**　計画に反映 基本構想(案)　４．土地利用構想 まちの未来の構想図 「まちの未来の構想図」に掲載している４つの図の下部に、**「※掲載している取組には、市が実施する事業のほか、国や民間事業者等が実施主体となるものも含まれています。」**と注釈を追加

項目 等（要約）	パブリックコメント意見 ※提出された意見は、誤字・脱字、改行、句読点等を含め、原文のまま掲載しています。ただし、個人が特定される情報や、公表に適さない情報については、一部を削除または加工しています。	意見に対する市の対応方針
No.4 総合計画は幅広い分野を網羅するよりも、**子育て・教育を最優先**に政策や財源を集中し、男女平等や人権尊重を基盤として、人口減少に対応した持続可能なまちづくり	一読し、非常に広範囲にわたる構想で、市民生活に関わるあらゆる面を網羅しており、抜け漏れの無い完璧とも言える計画だと感じた。反面、「完璧」を求める必要があるのだろうかという疑問がある。老若男女、あらゆる属性、あらゆる地区の人々に全方位的に配慮すれば、おそらく日本のどの自治体でもこれと大差ない計画が出てくるのではないか。 重点目標が５つもある時点で、実現は遠のく。絞ってしまえば漏れた分野から「なぜこちらには配慮しない」と言われる悩ましさは理解できるが、あらゆる分野を満遍なく伸ばす計画ならそれは計画とは言えないのではないか。 今回の構想に描かれたことを全て実現しようとするなら、それは「理想郷」を目指すと言っているのと同じこと。果たしてそれは地方自治体が掲げる目標として正しいのか。 地方自治体がまず取り組まなければならないのは、住民を必要な生活インフラに接続し、憲法でいう「健康で文化的な最低限度の生活」をしっかりと保障するために全力を尽くすことではないか。「理想郷」を示してなんとなく未来が明るいように見せることではないと思う。 具体的には、村上が最も優先すべき課題に絞ることが必要だと考える。これは日本全体にも言えることだが、人口が維持できなければ財政も維持できない。極端に増やす必要はないが、ある程度維持できなければ構想にあるような「理想郷」が作れるはずがない。それであれば、何より優先するのは「子育て」「教育」の環境ではないか。そこにまずリソースを重点的に配分し、安心して子どもを産み育てられる環境を整える。その中には、産科、婦人科への支援、保育所、保育士への支援、小中高校への支援、子どもが遊べる環境の整備、子どもが触れられる文化資本の整備などが含まれる。これらを支援することが、子どもだけでなく大人にとっても住みやすく文化的な街づくりにつながる。また、現代は子育て以前に「結婚するか」「子どもを作るか」という問題も大きいことから、結婚や子どもを持つことを躊躇わせる社会の在り方、ジェンダー平等が実現していない現状、古い家制度が残る地域社会の問題などの解決に向けた取り組みも自治体主導で（NGO等の協力を得ながら）行っていく必要がある。環境を整えてもそこに住む人間の意識が古いままであれば、特に未だ養育の大部分を担わされている女性が子どもを産み育てたいという発想にはならないだろう（私がこれまで接してきた多くの村上の若い女性は、未だ封建的な家父長制のもとで苦しんでいた）。歴史や文化の継承という一見もっともな目標が、男尊女卑や家父長制という、社会の変化にそぐわない制度の保存と一体化しないよう、注意しなければならない（村上大祭で男たちがお酒を飲んで騒ぐ間、女性は何をしているか、しなければならないかはこの問題の一つの側面である）。このように、ソフトとハードの両面で「子ども」「教育」を重視する街というスタンスを発信し続ければ、それに関連する産業や業種の参入も期待できる。自治体としての重点目標がなければ参入する側もメリットをどこに見出せば良いか分からず躊躇する。「子育て・教育の街」というスローガンのもとで、必要な経済活動を発展させるのが重要であり、その他の様々な分野に分散投資するのは得策とは思えない。 一方、このような「子育て・教育最重視」という目標設定を行えば、例えば「高齢者は無視するのか」「地域産業は」という他分野からの不満は生じるだろう。その際にも、「子育てができない自治体に未来はない、むしろそこを徹底的に支援することから他分野への好影響、好循環を生み出せる」というしっかりとした説得ができる理念を持つことが重要だと思う。それがなければ結局あらゆる分野が利益分与を求めて収集がつかなくなり、表面的かつ一時的な「やった感」を与えるだけで終わるのは目に見えている。今この瞬間の多方面へのわずかな予算配分よりも、数十年先の市民の生活基盤の安定を目指す重点目標の設定、その土台を支えるための男女平等を含む高い人権意識と倫理観の獲得、そこに市民全体が全力を上げて取り組むための理念の共有を目指すことを強く勧めたい。 「子育て世代が住みやすい街か」「子どもが安心して学び遊び生活できる街か」「産み育てる側の人権が守られる街か」を全市民の共通目標にすることに成功すれば、数十年後の村上に変化をもたらす可能性はあると考える。（常に立ち返るべき出発点は一つで良い。５つもあれば数年でその理念は忘れられるだろう）	人口減少や少子高齢化が進む中、限られた財源や人材を効果的に活用し、将来を見据えて施策の優先順位を明確にしていくことは重要であると考えています。 第４次総合計画は、市民生活を支える幅広い分野について、まちづくりの基本的な方向性を示すものであることから、５つの基本目標を設定しています。一方で、すべての施策を一律に進めるのではなく、課題の重要性や緊急性、将来への効果などを踏まえ、重点的に取り組むことも必要と考えています。 このため、いただいたご意見を踏まえ、第４次総合計画の基本構想（案）「５．将来に備える重点視点」の「重点視点の考え方」に、取組の優先順位を明確にする観点から、「将来への効果や緊急性などを踏まえて取組の優先度を見極めながら、」との記述を追加しました。 また、ご提案の子育て・教育環境の充実については、人口減少の抑制や将来を担う人づくりにつながる重要な取組と考えており、基本目標１「子育てと健康のまち」及び基本目標４「人が輝く郷育のまち」に位置付けています。さらに、「将来に備える重点視点」においても、「人づくり・担い手確保」の中に、子育て・教育環境の充実による若者の定着を掲げています。 具体的な取組については、第４次総合計画の基本計画（案）における「子育て」や「健康医療」分野において、保育環境の整備・改善、こどもが安全に遊べる場の確保、妊娠・出産に係る支援の充実などを位置付けており、教育や文化に関する施策についても、それぞれの政策分野で取り組むこととしています。 また、男女平等や人権尊重については、基本目標５「多様性が広がるまち」のもと、基本計画（案）の「共生社会」の分野において、人権尊重の推進や男女平等の推進を掲げています。性別による固定的な役割分担意識の解消など、誰もが自分らしく暮らせる地域社会づくりを進めていくことが重要と考えています。 さらに、市民の暮らしを支える生活基盤の維持についても、基本目標２「豊かで安心なまち」などに位置付け、安心して暮らし続けられる環境づくりを進めることとしています。 今後は、いただいたご意見も参考にしながら、事業の必要性や優先順位、財政状況などを総合的に考慮し、子育て・教育環境の充実をはじめ、将来にわたって安心して暮らし続けられる持続可能なまちづくりに取り組んでまいります。 **修正箇所** 計画に反映 基本構想(案)　５．将来に備える重点視点 重点視点の考え方 人口減少・少子高齢化の進行、担い手不足や財政制約の高まりなど、本市を取り巻く社会環境は大きく変化しています。 こうした変化に的確に対応するとともに、人口減少の抑制に取り組み、市民一人ひとりが安心して暮らし続け、地域の活力を未来へとつないでいくことが重要です。 そのためには、**将来への効果や緊急性などを踏まえて取組の優先度を見極めながら、**分野を越えて共通する視点を持ち、限られた資源を効果的に活用することが不可欠です。 本市では、５つの基本目標に基づく取組を、以下の４つの重点視点を横断的に取り入れながら推進します。

項目 等（要約）	パブリックコメント意見 ※提出された意見は、誤字・脱字、改行、句読点等を含め、原文のまま掲載しています。ただし、個人が特定される情報や、公表に適さない情報については、一部を削除または加工しています。	意見に対する市の対応方針
No.5 **二次交通の充実**、笹川流れなどの**観光資源の情報発信や駐車場等の整備**、多世代が利用できる**フリースペースの設置**	1. 移動手段の拡充（持続可能な地域交通） 市域が広いため、車を持たない世代や観光客の移動手段の強化をお願いしたいです。町屋・観光エリアでのシェアサイクル導入など、小回りの利く二次交通の整備を提案します。 2. 観光資源（笹川流れ等）の発信強化とインフラ整備【最重視】 笹川流れは県内随一の美しさを誇る貴重な資源ですが、現状はPRやSNS発信が不足していると感じます。今の時代、観光地探しはSNSの情報を元に行き先を決めています。若い世代やクリエイター視点を取り入れた魅力発信を時々されていますが、今の状態では足りないと感じますので、注力していただきたいです。観光課等の更なるご活躍と挑戦を期待しております。 併せて、現地での駐車場不足が気になり、大変不便だと感じています。駐車場や鑑賞スポットの拡充・整備を強く要望します。 3. 多世代が集えるフリースペースの設置 若い世代や子育て世代が日常的に集まれる場所が不足しており、村上市ではちょうど良い場所がない為、新発田市や新潟市まで行かなければならない状態です。 Wi-Fiや電源を完備し、勉強・仕事・趣味の作業・交流ができる公的なフリースペースの設置（図書館の拡充や既存施設の活用など）をお願いしたいです。	本市では、広大な市域における移動手段の確保や、地域資源を生かした観光振興、多様な世代が学び交流できる環境づくりを重要な取組と考えています。 第４次総合計画の基本計画（案）における「公共交通」分野では、地域の移動実態やニーズを踏まえた持続可能な公共交通体系の構築に取り組むとともに、鉄道・バス間の乗り継ぎ利便性の向上や、観光地等へのアクセス性を高める二次交通の強化を図ることとしています。 また、笹川流れをはじめとする観光資源については、基本計画（案）の「観光」分野において、多様な媒体を活用し、若年層やファミリー層などを意識した効果的な情報発信に取り組むとともに、観光客の周遊や滞在を促進することとしています。駐車場や鑑賞スポットについても、現地の状況や利用者のニーズ、関係機関との役割分担などを踏まえながら、観光客の利便性向上に向けた環境づくりに努めてまいります。 さらに、多様な世代が気軽に集い、学習や交流ができる環境づくりについては、基本計画（案）の「生涯学習」分野において、ライフステージに応じた学習環境の充実や、学びを通じた交流の促進に取り組むこととしています。ご提案のWi-Fiや電源を備えたフリースペースについても、公民館や図書館など既存の公共施設の活用や利用者のニーズを踏まえながら、誰もが気軽に学び、交流できる環境づくりに努めてまいります。
No.6 **「笑顔」の表現**は曖昧なため削除し、具体化しやすい将来像と**概要版の構成を本文にも反映**	意見　該当箇所：本文の基本構想（文章案）将来像と、概要版の将来像 基本構想案の検討中の審議会を傍聴したので、検討経過を思い出しながら「本案」を読みました。検討の中で一番賛同したのが、この将来像への意見でした。委員の中からも、「笑顔」という表現では像が不明瞭である旨の意見があったと記憶します。その点は同感でした。また、この度の構想案の「将来像」の「笑顔を礎に希望ある未来へ」という表現は不要だと思います。 第１次策定からの言葉ですから、先人への配慮があるのかしらとも受け取りましたが、それでも、「笑顔」の意味することが曖昧で、それを目指すことが行政の施策の評価に、どのように意味を持つのかが不明瞭です。行政の計画では記載しないでもよいと思いました。 第１次と第３次の策定の際に、公募委員として参画したのですが、その際、賛同しきれなかったのが、この将来像の示し方でした。「元気・いいまち」を将来像の表記にするのは、構想としてはその後の具体策への展開が漠然と成り易く、行政の計画としては不十分なのではないか、というのが私の考えでしたので。 また、それらの観点から、「つながりと挑戦で、未来をつくるまち」にしたことは、どのようなつながりを、どのようにして創るか、挑戦はどのようにしてするのかなどが、具体化しやすい表現になったと受け止めました。 概要版の□で囲んだ左から右への各表現の仕方は、読みやすく理解しやすいと思いました。本文にも、これを記載してみたらよいのでは、と思いました。	第４次総合計画では、これまで大切にしてきた「笑顔」への想いを受け継ぎながら、その笑顔を支えてきた人や地域の「つながり」を広げ、そのつながりを力として新たな「挑戦」へつなげる考えから、将来像を「つながりと挑戦で、未来をつくるまち村上」としています。 「笑顔を礎に、希望ある未来へ」は、この将来像そのものではなく、第次総合計画まで大切にしてきた「笑顔」への想いを継承し、そこから第４次総合計画が目指す「つながり」と「挑戦」へ発展させていく経過や考え方を示す副題です。 また、「笑顔」は施策の成果を直接評価する指標として掲げるものではなく、市民が安心して暮らし、希望を持てるまちづくりの根底にある想いを表しています。行政施策の具体的な方向性や成果については、５つの基本目標、３２の政策分野及び基本計画に掲げる目標指標等によって明確にし、進捗を確認していきます。 概要版では、将来像に込めた考え方を簡潔に伝えるため、「これまでの想いを受け継ぐ」「さまざまな『つながり』を広げる」「『つながり』を力に新たな挑戦へ」「希望ある未来をともにつくる」という流れで整理しています。基本構想本文においても、「進化のストーリー」「将来像の考え方」「将来像に込めた想い」により、同様の内容を詳しく説明していることから、概要版と本文はそれぞれの役割に応じた構成として、原案どおりとします。
No.7 **洋上風力発電による健康・環境への影響や費用負担を懸念**し、事業の中止、またはメリット・デメリットを含めた市民への十分な説明	洋上風力発電の件 低周波により海洋生物にも人体にも悪影響があり、自然景観を壊しコストもかかる。 更に電気代も上がる。 市民の為にならない風力発電は辞めるべき。 健康被害が出ている他県があるのにやるのですか？ それでも押し進めるのであれば、こっそり進めるのではなく、大々的に市民に説明会を開きメリットだけではなく、デメリットも提示してほしい。	洋上風力発電については、脱炭素化の推進や地域経済の活性化が期待される一方、住民の皆様に様々なご意見やご心配があることを認識しております。 市では令和６年度に事業概要説明会を開催したほか、発電事業者においては、環境影響評価法の定めるところにより、自然環境や生活環境への影響について予測・評価を行い「環境影響評価準備書」としてとりまとめ、その内容については、令和７年度実施した縦覧及び住民説明会において、住民の皆様からのご意見やご質問にお答えしたところです。 今後も発電事業者に対し、最新の知見等を参考に調査・予測及び評価を行い、影響の回避や低減に努めるよう求めていくとともに、適切な情報提供に努め、住民の皆様の理解を得られるよう取り組んでまいります。

項目 等（要約）	パブリックコメント意見 ※提出された意見は、誤字・脱字、改行、句読点等を含め、原文のまま掲載しています。ただし、個人が特定される情報や、公表に適さない情報については、一部を削除または加工しています。	意見に対する市の対応方針
No.8 **総合計画の実行日程や推進体制の明確化**と、市民参加による歴史・文化・地域資源の発掘・継承、広域連携を通じた地域活性化	総合計画専門部会の生涯学習・文化芸術にも参加させて頂きました。次のように意見をさせて頂きます。 総合計画に、どのようにして計画を実行していくかのあくまでも実行日程案は入れないのでしょうか？ テーマごとの各地区やテーマごとの実行部隊、部員の候補者に根回し、その部員からモチベーションの高い住民への追加取り込みをしてはどうかと思います（これは、どのように実行するかを計画に入れる必要は無いかと思いますが） シチズンサイエンスという新しい取り組みの広報と、その候補となる住民と相談の上、埋もれた技、工夫、語り、歴史を掘り起こし、それを現代に利用できないかを探り、また後世に伝える活動を行なう 歴史であれば、石碑と代表的な書物との関わりの看板を立てるとか、歴史上の著名人物との関わりのある場所に看板を立てるとか。 北前船ネットワークやかつての往来で、他県、他市町村との連携をねらい、歴史的、防災上、もしもの際の太平洋側のバックアップネットワークを連携し、構築をねらう。ちょっと大きな話ですが、日本海ベルト地帯の旗振り役とか？ 例えば、北前船なら、山形県酒田市、新潟市、富山市、石川県輪島市、福井県敦賀市、小浜市との連携とか。 村上大祭やあらかわ地区獅子踊りのファンを全国から募り、その祭り実施日に招待や参加を募ったり、 例えば、あらかわ地区金屋の獅子踊りと奉られる”素戔嗚尊”と島根県出雲や京都祇園祭りとの関わりや、その素戔嗚尊が、古事記、日本書紀にも記述される等を地域住民や子供たちに伝えることもあってはと思います。 坂町駅の草むらにうずもれた　機関車転車台を全国のマニアに草刈りを募り、太平洋側の震災の際の太平洋側と日本海側をつなぐ鉄道（交通機関）の重要性を全国に再認識してもらうきっかけ作りを行う。 飯豊連峰や朝日連峰からの豊の水や土壌による豊かな土地の形成や、石油が採掘される日本海の重要性を背景から、地下資源、風力、水源の確保等利用価値、方法を広報、再認識活動を行う。 以上思いつくところを上げました。宜しくお願い致します。	総合計画は、本市のまちづくりの基本的な方向性や施策を示すものであり、具体的な事業の実施時期や進め方については、関連する個別計画や毎年度の事業計画、予算編成などの中で検討していくこととしています。また、計画に掲げる取組については、成果指標等を用いて進捗状況を確認し、必要に応じて見直しを行いながら推進してまいります。 ご提案のシチズンサイエンスのように、市民が主体的に地域の歴史や文化などの調査・記録に関わることは、地域に埋もれた貴重な資源の発見や保存、次世代への継承につながる重要な視点であると考えています。 このため、いただいたご意見を踏まえ、第４次総合計画の基本計画（案）における「文化財」分野の「チャレンジ１　文化財の保存・活用の推進」に、市民や関係団体等と連携した文化財の調査・記録に取り組むことを追記しました。 また、地域の歴史や文化を学び、次世代へ伝える活動については、基本計画（案）の「生涯学習」や「学校教育」分野にも位置付けています。祭りや伝統行事の継承、地域外からの参加促進、歴史文化の情報発信についても、「文化財」や「観光」分野において取り組むこととしています。 その他、ご提案いただいた歴史的な場所への案内板の設置、北前船を通じた他自治体との交流や防災面での連携、坂町駅の転車台の活用、地域の自然資源や産業資源の再発見・発信などについては、今後、関連する施策や事業を検討する際の参考とさせていただきます。 今後も、市民や関係団体など多様な主体との連携を図りながら、地域の歴史や文化の保存・活用と、その魅力の発信に取り組んでまいります。 **修正箇所**　計画に反映 基本計画(案)　基本目標４　まちづくり分野４-３　文化財 チャレンジ１　文化財の保存・活用の推進 「村上市文化財保存活用地域計画」に基づいて有形・無形・民俗等文化財全般を適切に保存・活用するための事業を計画的に実施し、**市民や関係団体等と連携した調査・記録に努めるとともに、**活用については観光部局との連携を強化します。また、村上市文化財保存活用地域計画協議会において事業の進捗管理を行います。
No.9 **公共施設を拠点周辺へ集約・充実**し、乗合タクシーで移動を支えるとともに、情報端末による相談・オンライン診療	土地利用構想では、生活維持と集約とありますが、集約の考え方は良いと思います。やはりどの地区にも同じような施設があり維持管理にはそれなりのコストが掛かります。中心拠点には整備出来なくともその周辺にしっかりとした設備のものを整えれば良いかと思います。遠方の方の利用には乗り合いタクシーを利用するなどの配慮が必要かと思います。 また、基本目標の子育てと健康のまちについて、心配ごと相談や医師の診察など足腰が悪い方への配慮として、市情報タブレットでの対応は出来ないのものかと思います。	施設の集約・適正配置については、人口減少が進む中で、すべての地域に同様の施設や機能を配置・維持するのではなく、必要な機能を適切な拠点に集約しつつ、周辺地域を含む市域全体の暮らしを維持することが重要であると考えています。 第４次総合計画の基本構想（案）「土地利用構想」では、「集約」と「生活維持」の両立を基本とし、中心拠点や地域拠点に必要な機能の維持・充実を図るとともに、公共交通やデジタル技術を活用して、市内のどの地域に住んでいても必要なサービスにアクセスできる環境づくりを進めることとしています。 また、基本計画（案）における「行政運営」分野では、公共施設の利用状況等に応じた統廃合や適正管理を進めるとともに、「公共交通」分野において、各地区の移動実態や課題を踏まえ、のりあいタクシーやデマンド運行等、その地域に適した運行形態を検討することとしています。 高齢者や移動が困難な方の相談や診療については、基本計画（案）における「デジタル」分野において、健康・福祉分野を含む地域ＤＸを推進し、デジタル技術による移動負担の軽減やサービスの高度化を目指すこととしています。タブレット等を活用した相談やオンライン診療については、利用者への操作支援や通信環境、個人情報の保護、医療機関等との連携を踏まえ、今後の具体的な取組を検討する際の参考とさせていただきます。

項目 等（要約）	パブリックコメント意見 ※提出された意見は、誤字・脱字、改行、句読点等を含め、原文のまま掲載しています。ただし、個人が特定される情報や、公表に適さない情報については、一部を削除または加工しています。	意見に対する市の対応方針
No.10 **市民やボランティアへの依存**が大きいため、専任職や活動費等を確保し、**職員・市議も地域活動へ参加**	・基本構想（案） 構想が壮大過ぎてどのように行政（職員）が主導できるのか？ 一般市民やボランティアを当てに（利用）しすぎる用に思います もっと職務外での市議、職員様の行動力を望む 地域差が大きく個々での必須事項が“［判読不能］”いを是正する 市議が出身地域の整備や産業に肩入れしすぎ全体の仕事とボランティア活動にも励んでいただきたいです ・地域の実状や課題、今後のまちづくり ボランティアに頼るのではなく専任職として地位を確立してもらいたい。地域間での問題や取り組みの違いが大きく思います 各地域での独立性が有って然るべきに考えます。 職員、市議の方ボランティア参加を促してほしいです ＮＰＯ化や企業との連帯（利益相反）等図り予算（人件費）確保 活動費確保 活動委員は集落からではなく（半強制の形）自選募集 職員の方から参加（ボランティア）していただく 市議関係者周辺よりボランティア参加してもらう もしくは、賃金や保証保険確保して活動してもらう ※手書きの原文のうち、読み取れない箇所を「［判読不能］」と表記しています。	人口減少や少子高齢化が進む中、地域活動の担い手不足や負担の増加、地域ごとの課題の違いに対応し、持続可能な地域づくりを進めることは重要であると考えています。 第４次総合計画の基本構想（案）「５．将来に備える重点視点」では、市民や地域団体、企業、行政などがそれぞれの役割を果たし、互いに連携・協力しながらまちづくりを進める「共創の連携」を重点視点の一つに掲げています。これは、市民やボランティアの方々に行政の役割を委ねるものではなく、多様な主体が互いの強みを生かして地域課題の解決に協力して取り組むことを目指すものです。 また、基本計画（案）の「地域づくり」分野では、行政と地域まちづくり組織等が互いに補完し合う関係づくりや、集落支援員の配置、多様な人材の確保・育成などを位置付けています。地域ごとの実情や自主性を尊重しながら、活動の負担軽減や持続可能な運営につながる取組を進めることとしています。 ご提案いただいた地域活動の専任職員の配置、ＮＰＯや企業との連携、活動費や人件費の確保、委員の公募、報酬や保険などの活動環境の整備については、今後の地域づくりの支援や運営体制を検討する際の参考とさせていただきます。また、市職員の地域活動への参加については、職員の自主性を尊重することを基本としつつ、職員が地域への理解を深め、地域とのつながりを持つことの意義について、庁内で共有してまいります。 市議会議員の活動に関するご意見については、市議会及び議員の活動に関する内容であることから、市議会に対するご意見として取り扱います。 今後も、行政の役割と責任を踏まえ、地域ごとの実情に応じた支援と多様な主体との連携を図りながら、持続可能な地域づくりに取り組んでまいります。
No.11 **女性や多様な立場の人の意見を反映**し、市民に分かりやすい具体策を示すとともに、駅前跡地の活用や下水道整備を柔軟に見直す	辛口で申し訳ないです、率直な感想を述べさせて頂きます。 まずは、写真のメンバーが、全員男性だけで驚きました。地球上のららろ、世の中は男半分、女半分で構成されています。 子供を生み育てたのは地方の村上では、ほとんど女性なのでは？ 生活、教育、医療、他様々な現場においても、支えているのは半数が女性です。 現代社会において、男性の感覚で全てが整えられるとは、わたしは思いません。 男性と女性の感覚や尺度、思考、フォーカスの違いがある中、業種なども含め、様々な尺度や感覚のある方を混ぜて進めるのが最適かと思います。 関係者だけで進め、企画の落ち度が有り、予算を遥かに超え進めている事業はたくさん有ります。市民はかなり怒っています。声に出さない声がどのくらいあるのか、役人は知りません。 資料はごく当たり前の言葉や事柄を並べています。具体的な構想はこれからなのでこの表現なのでしょう。 市は何を望んでどのように進めたいのか、次の「市民がわかりやすい短的な表現」を望みます。 例えば 駅前の観光都市ならではの買い物が出来るモールの建物。 駅前ジャスコ跡地において、近年日本中で起きている災害時の即対応できるエリア(仮設住宅も含む)にする。また、駅前で市民や団体が自由に使えるエリア(立地条件が良いエリアが他に無い事から)にする。そして、観光客の駐車場に対応ができるエリアとして、常にフリーで使って頂くために、そのまま残す。(電気設備やトイレ、災害時に対応できる災害備蓄設備等は必要) 備考 下水道設備にフォーカスを置けば、ある日本の地域において。 過去、公共下水道設備を市民に呼びかけるが、住居者の激減や設備の老朽化のため、市は新たに設備を作り治す巨大な資金を負う事を止め、個々の家で簡易式の浄化槽を付ける事により相当の公共設備の経費が削減された事例など、既存の考えから新たな構想、思考を求められると思います。	女性をはじめ、年齢、職業、生活環境等の異なる多様な立場の方々の意見をまちづくりに反映することは重要であると認識しています。第４次総合計画の基本構想（案）では、基本目標として「多様性が広がるまち」、重点視点として「共創の連携」を掲げています。また、基本計画（案）における「共生社会」分野では、誰もが地域社会の意思決定に公平な機会のもとで参画できる仕組みづくりや、各種委員会への女性の登用を推進することとしています。今後の計画推進や個別事業の検討においても、女性や若者を含む多様な主体が参加しやすい環境づくりに努めます。 また、市民の声を市政に反映することについては、基本計画（案）の「広報広聴」分野において、市民の声が市政に届く対話の場の創出や、意見を伝えやすい環境整備を進めることとしています。「行政運営」においても、表面化しているニーズだけでなく、潜在する市民ニーズを捉えることを位置付けています。今後、個別事業を進める際にも、多様な方法により幅広く意見を把握するよう努めます。 村上駅周辺の大規模跡地については、基本計画（案）の「市街地・景観」分野において、官民連携による施設整備やにぎわいの創出、インフラ整備を進めることとしています。ご提案の商業、防災、市民交流、駐車等の機能については、今後の具体的な整備内容を検討する際の参考とさせていただきます。 上下水道については、人口減少や施設の老朽化等を踏まえ、基本計画（案）の「上下水道」分野において、集合処理方式と個別処理方式の適正性を検証し、施設の統廃合、ダウンサイジング、事業転換の方向性を示すとともに、合併処理浄化槽の普及促進と適切な維持管理を進めることとしています。

項目 等（要約）	パブリックコメント意見 ※提出された意見は、誤字・脱字、改行、句読点等を含め、原文のまま掲載しています。ただし、個人が特定される情報や、公表に適さない情報については、一部を削除または加工しています。	意見に対する市の対応方針
No.12 **市役所の土曜開庁**、山北地区への**サファリパーク**誘致、岩船地区の**大規模海鮮市場整備**により、利便性と地域経済を高める	週末における市役所機能の強化 様々な手続き・相談・書類の発行など、現状では平日に仕事を休まないと用を足すことは出来ない。 新発田市などでも、市民ニーズに応えて土曜日の午前中は開庁しており、市民は非常に助かっている。 村上市でも導入してくれると、市民に寄り添った市民の為の市役所として住みやすい環境づくりに寄与するものと考える。 観光動物園の招致 新潟県内には、動物園が無い。 人口減少が著しい山北地区などに、人が集まり働く場所も提供出来る仕組みとして、田んぼや山を使ったサファリパークを開設し、県内外から顧客確保に努める。 岩船鮮魚センター界隈の開発 県内でも大きな海鮮市場を県北地域にも作り、上越の名立、中越の寺泊に下越の「岩船」と同程度の規模で作っていくことで、新潟県の海産物ブランドの強化と村上市にお金が落ちる仕組みを作る。	市民の皆様が仕事や生活の都合に合わせて行政サービスを利用できる環境づくりや、地域資源を生かした観光振興による交流人口の拡大、雇用の創出は、暮らしやすく活力あるまちづくりを進める上で重要であると考えています。 市役所の土曜日開庁については、平日に来庁することが難しい方への対応として、ご提案の趣旨を理解しています。第４次総合計画の基本計画（案）における「デジタル」分野では、行政手続のオンライン化やコンビニ交付など、市民が時間や場所にとらわれず行政サービスを利用できる環境づくりを位置付けています。土曜日開庁の導入については、他自治体の事例や市民ニーズ、職員体制、費用対効果などを踏まえ、今後の窓口サービスのあり方を検討する際の参考とさせていただきます。 また、山北地域への観光動物園やサファリパークの誘致については、観光客の誘致や新たな雇用の創出につながる可能性があるご提案として受け止めています。基本計画（案）の「観光」分野では、地域資源を生かした観光振興や観光施設の利活用を、「商工業」分野では、企業誘致や雇用機会の創出などを位置付けています。具体的な施設の誘致や整備については、事業の実現可能性や地域への効果なども含め、今後の関連施策を検討する際の参考とさせていただきます。 岩船鮮魚センター周辺の開発については、本市の豊かな水産資源や食の魅力を生かし、観光誘客と地域経済の活性化につなげるという視点が重要であると考えています。基本計画（案）の「観光」分野では、特産品や食文化の情報発信、観光施設の利活用などを位置付けており、「水産業」分野においても、水産業の振興に取り組むこととしています。ご提案いただいた大規模な海鮮市場の整備については、既存施設との関係や事業の実現可能性などを踏まえ、今後の観光振興や地域産業の活性化に向けた取組を検討する際の参考とさせていただきます。 今後も、市民の利便性向上と地域資源を生かした産業・観光の振興を図り、暮らしやすく魅力あるまちづくりに取り組んでまいります。
No.13 若者など地域の担い手を確保・育成するとともに、**複数の役割を担う人の負担を軽減**するため、地域活動の見直し	基本理念、基本目標は将来の村上に大切なことを挙げていると思います。 ５０代後半の私からは不安でしかない未来を一緒に創り上げていく仲間たち、若者たちをどうやって探し見つけて集落、地域を繋げていくか。 まちづくり活動でも自分の仕事をしながら地域のために動いている方がほとんどです。まちづくり運営委員の他にも他団体で活動してる方々もいます。 人口減少、少子高齢化が進む中で何役もこなして行かなければいけないことから、それぞれの負担を軽くし活動の見直しをはかっていただけたらと思います。 地域、集落の担い手不足は未来をつなげようにも繋がらない問題になっています。	人口減少や少子高齢化が進む中、地域活動の担い手が減少・固定化し、一部の方が仕事をしながら複数の役割を担っていることは、地域活動を将来へつないでいく上で重要な課題であると認識しています。 第４次総合計画の基本構想（案）「５．将来に備える重点視点」では、「人口減少への適応」「人づくり・担い手確保」「共創の連携」を掲げ、地域活動を支える人材の育成・確保や、多様な主体による協働を進めることとしています。 また、基本計画（案）における「地域づくり」分野では、若い世代や多様な人材の発掘、外部人材との連携に加え、「共創」「多機能」「高効率」の視点を取り入れた活動を進めることとしています。 ご意見を踏まえ、担い手の負担軽減をより明確にするため、基本計画（案）における「地域づくり」分野に、地域の実情に応じた活動内容、運営体制及び役割分担の見直しを進め、担い手の負担軽減と持続可能な地域活動につなげる旨を追記します。 **修正箇所** 計画に反映 基本計画(案)　基本目標５　まちづくり分野５-２　地域づくり チャレンジ１　市民と行政が協働するまちづくりの推進 人口減少により地域行事や地域活動の継続が難しい状況にある中、様々な団体と協力する「共創」、一つの事業に多くの目的や課題解決を取り入れる「多機能」、労力を抑えつつ効果を高める「高効率」の視点を取り入れ~~た活動を広げます。~~、地域の実情に合わせた活動内容や運営体制、役割分担とするよう見直しを進めながら、担い手の負担軽減と持続可能な地域活動につなげます。

項目 等（要約）	パブリックコメント意見 ※提出された意見は、誤字・脱字、改行、句読点等を含め、原文のまま掲載しています。ただし、個人が特定される情報や、公表に適さない情報については、一部を削除または加工しています。	意見に対する市の対応方針
No.14 基本理念の「つながり」に賛同。人口減少が進む**周辺地域と中心部の連携強化**、森林資源の循環利用と**林業人材の確保**	基本理念に「つながり」「つながる」の考えが入ることに賛同します。 人口減は避けることのできない本市も含めて日本全体の最大の問題であると思います。そして本市は他に比べてもその速度が速いのではないかと懸念しています。特に私の住む山北地区や山間部の集落は非常に危機感を持っているところです。高齢化も進む中で地域の維持が困難になる地区も出てくるのではないかと先行きが不安視される現在の状況です。そのような状況の地区と市の中心又は他地区との「つながり」をどう構築するかが課題であると思います。合併から20年近くになりましたが、いまだ一体感に少し欠けているように感じます。山北地区は特に市の中心部から遠くにありますので物理的に遠い分を何らかのプラス要素を加えて補わないと一体化してこないのではないかと思います。それぞれの地域の特性を損なわずに一体化につなげてゆくことを期待します。 土地の利用構想に本市の広大な森林の活用を是非お願いします。 木質バイオマス発電所の建設が予定されていることから、現状よりもっと「伐って植える」が必要となります。県内有数の林業地ですが、残念ながら林業に就業する若者が少ないのが現状です。施策を展開するにも人員の確保が必須です。市県国も支援していますが、なかなか良い方向に進んでいません。県と歩調を合わせて、もう一歩人材確保への積極的な施策を進めていただきたいと思います。	「つながり」の考え方にご賛同いただいたものと受け止めています。 人口減少や高齢化が進む中、とりわけ中心部から距離のある山北地域や山間集落において、日常生活に必要なサービスや地域活動をどのように維持していくかは、重要な課題であると認識しています。 第４次総合計画の基本構想（案）「４．土地利用構想」では、生活サービスの維持が特に重要となる地域を「北部生活圏」と位置付け、支所や駅、医療・福祉機関など、日常生活に必要なサービス機能の維持・確保を図ることとしています。また、中心拠点、地域拠点及び北部生活圏とのつながりを確保し、公共交通やデジタル技術を活用しながら、市内のどの地域に住んでいても必要なサービスにアクセスできる環境づくりを進めることとしています。 各地域が持つ自然、歴史、文化、産業などの特色を大切にしながら、道路や公共交通といった物理的なネットワークに加え、情報通信や人的交流を含めた多様なつながりを広げ、市域としての一体感と地域の活力の向上につなげてまいります。 森林の活用については、「４．土地利用構想」において、市内産木材の運搬や木質バイオマス発電などの取組を、高速道路を活用して結び付け、新たな産業や交流の創出につなげる方向性を示しています。 また、基本計画（案）の「林業」分野では、成熟した森林の伐採と再造林による森林資源の循環利用を進めるとともに、森林のゾーニング、施業の集約化、路網整備、ＩＣＴ技術等を活用したスマート林業、低コスト再造林などに取り組むこととしています。木質バイオマスについても、市内発電事業者への燃料の安定供給体制を整備し、その有効活用による脱炭素化を図ることとしています。 林業の担い手確保については、地域おこし協力隊の募集や情報誌、ＳＮＳ、ウェブサイト等を活用した情報発信を行うほか、林業事業体の経営基盤の強化や待遇改善を通じて、新規就業者の確保・育成・定着に取り組むこととしています。いただいたご意見も踏まえ、国・県、林業事業体、教育機関等との連携を深めながら、若者をはじめとする多様な人材が林業を就業先として選択し、地域に定着できる環境づくりを進めてまいります。
No.15 伝統文化の継承や世代間交流、地域特性の再発見、人口減少に対応した**地域づくり**、施策の選択と集中、まちづくり協議会の方向性の共有を求める。	・基本構想（案） 将来像 ～ 各地域での伝統文化の継承をどの様にして行うか、世代を超えて近所付き合いを昭和の時代に。 基本理念 ～ 幅広い年齢層と関わり、価値観の多様性を知った上で活動する。 基本目標 ～ 人口減少を踏まえた地域づくりが重要となる。 土地利用構想 ～ 地域外から村上市各地区の特性を聞き取る、外部の方が良さを知っている場合あり。 将来に備える重点視点 ～ 選択と集中に徹する。 ・地域の実状や課題、今後のまちづくり 人口減少、少子高齢化に伴う課題は各まち協共通している感じであるので、同じ方向性を持つ事が必要と考えます。	人口減少や少子高齢化が進む中、地域の歴史や伝統文化を次世代へ継承するとともに、世代や地域を超えたつながりを大切にし、地域の実情に応じたまちづくりを進めることは重要であると考えています。 第４次村上市総合計画の基本構想（案）では、将来像に「つながりと挑戦で、未来をつくるまち村上」を掲げ、歴史や文化、人々の思いを次世代へ引き継ぐとともに、世代や地域を超えて支え合うまちづくりを目指しています。また、「２．基本理念」の「創る・育む・広げる」や「３．基本目標」においても、多様な価値観を尊重しながら、人と人、地域と地域のつながりを深め、交流を広げていく考え方を位置付けています。 「４．土地利用構想」については、各地域の特性を踏まえた土地利用や拠点づくりの方向性を示しており、地域外の方の視点を取り入れるというご提案についても、今後の地域資源の活用や魅力発信などを検討する際の参考とさせていただきます。 また、「５．将来に備える重点視点」では、「人口減少への適応」など４つの視点を掲げ、限られた資源を効果的に活用しながら、地域の実情に応じた取組を進めることとしています。 各まちづくり協議会が抱える共通の課題についても、地域ごとの特性や実情を尊重しながら、課題や取組の方向性を共有し、地域間の連携を図っていくことが大切であると考えています。 今後も、市民や地域、関係団体など多様な主体と連携しながら、人口減少社会に対応した持続可能なまちづくりを進めてまいります。

項目 等（要約）	パブリックコメント意見 ※提出された意見は、誤字・脱字、改行、句読点等を含め、原文のまま掲載しています。ただし、個人が特定される情報や、公表に適さない情報については、一部を削除または加工しています。	意見に対する市の対応方針
No.16 短時間から働ける**求人マッチング**を導入し、企業の人材確保や学生の職業体験など、多様な就労機会を確保	生活者として「就労」ということも1つの大きな要素と思います。 隣の胎内市では「求人マッチボックス」を始めました。1日から就労できる機会と出会えるものです。 企業にとっては働き手の確保や伝統的な産業への興味の拡大に繋がり、働きたい人にとっては副業や短時間からすぐに働き収入を得たい、様々な経験を積みたいなどに繋がると考えます。 また、学生からも募集ができるとなれば、実践的に将来を考えることができると思います。 検討されてることかもしれませんが、今後の就労機会の確保について検討をお願いします。	人口減少や少子高齢化が進む中、企業の人材確保と、働く人の希望や生活スタイルに応じた多様な就労機会の創出は、地域経済の活性化や働きやすい環境づくりのために重要であると考えています。 第４次村上市総合計画の基本計画（案）における「就労・雇用」では、若者の地元就職の促進や企業と求職者のマッチング支援、職場体験やインターンシップの推進、多様で柔軟な働き方を支える就労環境の整備などを位置付けています。また、「商工業」においても、多様な働き方の提示や市内企業の人材確保への支援に取り組むこととしています。 ご提案いただいた、１日単位や短時間から働ける求人マッチングの仕組みについては、企業の人手不足の解消だけでなく、副業や多様な就労機会の確保、学生が地域の仕事や産業に触れる機会の創出にもつながるものと考えています。 胎内市の取組事例も含め、こうした仕組みの導入については、企業や求職者のニーズ、既存の就労支援制度などを踏まえ、今後の就労支援施策を検討する際の参考とさせていただきます。 今後も、関係機関や市内企業と連携しながら、多様な人材がそれぞれの希望に応じて働くことができる環境づくりと、地域産業を支える人材の確保に取り組んでまいります。
No.17 **大型屋内遊戯・学習施設**や店舗、**企業を誘致**するとともに、**保育士の処遇・働き方を改善**し、安心して子育てできる環境を整える	いろんな案がありますが、新発田、五泉、阿賀町など園児、小学生が遊べるような大型屋内施設の建設、新発田のような施設内で高校生が勉強できる図書スペースの設置があると親御さんは夜でも安心出来ると思います。 その施設が駅に近いと村上大祭の利用も便利となります。 ユニクロ、GU、バースデイなどの店舗があると車で遠くまで行かなくていいので親としてはありがたいです。 その他の意見としては親御さんが働く大型企業があれば村上から新発田、山形、新潟まで働きに行かなくても済むと思います。 その他意見としましては、私立保育士の給料の増額と働き方の改革を行わなければ、子供が増えても人がいない。保育士が増えてもお金に余裕がないので子供が産めないというマイナスのこととなります。人の命を預かるからこそ基盤がしっかりしないと子供が溢れた時に人がいない、働き方がきついからやらないという意見が出てくると思います。	子どもたちが安心して遊び、学ぶことができる環境の充実や、子育て世代が働きやすく、安心して子どもを産み育てられる環境づくりは、重要であると考えています。 子どもの遊び場については、市では既に大型屋内遊び場を整備し、子どもや親子が天候に左右されず、安心して遊べる環境の確保に取り組んでいます。また、第４次総合計画の基本計画（案）における「子育て」分野では、子どもや親子が安全に遊べる場の整備を位置付けています。 学習環境については、村上市生涯学習推進センターに学習室を設けるなど、学習の場の提供に取り組んでいます。また、基本計画（案）の「生涯学習」分野において、学習の場や機会の充実、図書館の環境整備などに取り組むこととしています。ご提案の高校生が安心して利用できる学習スペースやその設置場所については、既存施設の利用状況やニーズなどを踏まえ、今後の施設整備や既存施設の活用を検討する際の参考とさせていただきます。 商業施設の充実や雇用の場の確保については、基本計画（案）の「商工業」や「就労・雇用」分野において、地域産業の活性化や企業誘致、雇用機会の創出などを位置付けており、いただいたご意見も参考にしながら、取組を進めてまいります。 また、保育士の処遇改善や働き方の見直しについては、保育人材の確保と定着を図り、安定した保育サービスを提供していく上で重要な課題であると認識しています。このため、いただいたご意見を踏まえ、基本計画（案）の「子育て」の「チャレンジ２　保育環境の整備・改善」に、保育士が働きやすい職場環境づくりを促進する旨の記述を追加しました。 今後も、保育事業者をはじめとする関係機関と連携しながら、保育人材の確保・定着と保育環境の充実に努め、子育て世代が安心して暮らし続けられるまちづくりを進めてまいります。 **修正箇所**　計画に反映 基本計画(案)　基本目標１　まちづくり分野１-１　子育て チャレンジ２　保育環境の整備・改善 3歳未満児保育の受入拡充に向け、民間活力の導入や保育士資格取得支援等の就業支援を行~~い、~~**うとともに、保育士が働きやすい職場環境づくりを促進し、**人材の長期的確保と質の向上に取り組みます。

項目 等（要約）	パブリックコメント意見 ※提出された意見は、誤字・脱字、改行、句読点等を含め、原文のまま掲載しています。ただし、個人が特定される情報や、公表に適さない情報については、一部を削除または加工しています。	意見に対する市の対応方針
No.18 **計画名称とこども憲章を提案**し、指定避難所の下水道耐震化や、福祉・子育て関係部署の同一階配置	５月から専門部会を設置し、各分野からの意見を取りまとめて市民への見える化のための資料を作成して来られた、審議会委員の皆様、市役所職員の皆様、本当にお疲れ様です。 あれだけの沢山の資料を作成するのは、本当に大変だったことと思います。 一生懸命作成して来られた資料をみて終わるのではなく何かのちょっとのアイデアの材料にでもなれればという思いでこちらに書かせて頂きます。既に話が進んでおりましたら失礼いたします。 ・第四次村上市総合計画の〈名称〉について、４つの案がありますが、公募されているようでしたらと考えてみました。 【みんなの力と声を未来へ】 故きを温ねて、新しきを知り、 共生社会、全員参加のまちづくり。 ※コンセプトは、一人一人が自分達で村上市の未来を考え、良き歴史や習わしから学び、同時に新しい意見を取り入れながら、全員で共に支えあい紡ぎ歩んでいく。 ・こどもの権利について 市民が環境を育てて支えることで〈地域の子育て　基本理念の育む〉につなげられたら幸いです。 村上市こども憲章（案） ○あなたには、この地域で愛される権利があります。 ○あなたには、この地域で家族と一緒に安心して暮らせる権利があります。 ○あなたには、辛かったり悲しいときに大人に助けてと言える権利があります。 ○あなたには、色々な情報をもらえる権利があります。 ○あなたには、この地域で大人から支えあうことの意味を教えてもらえる権利があります。 ○あなたには、わからないことがあれば大人にわかるまで教えてもらえる権利があります。 ○あなたには、地域に貢献できる権利があります。 ○あなたは、多様性や個性を認め、人の命を大切にすることを考えられる村上市の宝です。 ・災害時（地震）における下水道の耐震化いついて 病院、学校、福祉施設、介護施設を優先するのは勿論のことですが、指定避難所も優先的に行って頂くことを希望致します。 ・その他 市の事情や様々の理由があり難しいことかもしれませんが、平常時からの情報連携の効率を図るため、介護高齢課、福祉課、こども課、障がい者基幹相談支援センターを同じ階にすることは可能でしょうか？ たまたま新発田市役所に出かけた際にフロア図を見たのですが、災害時の個別避難計画の面からも良いなと思いました。私自身も何気なく日常を過ごしている人間に過ぎませんが、いい創り方されているなと感じました。 最後に、自分たちの市を改めて学ぶ機会、気づきを与えてくれたことに感謝いたします。理解不足、至らない点、誤字などありましたら大変失礼いたしました。	第４次総合計画の名称については、これまでの名称にとらわれず、計画の趣旨や目指すまちの姿が伝わり、市民の皆様により親しみを持っていただける名称となるよう検討を進めています。 ご提案いただいた名称とそのコンセプトについては、一人ひとりが村上市の未来を考え、歴史や文化を大切にしながら、共に支え合ってまちづくりを進めていくという思いが込められたものとして、名称を検討する際の参考とさせていただきます。 こどもの権利については、第４次総合計画の基本計画における「子育て」分野では、その認知や理解が十分に浸透していないことを課題として掲げ、こどもの意見を取り入れながら、こどもの権利に関する取組や普及啓発を進めることとしています。ご提案いただいた「村上市こども憲章（案）」については、今後、こどもの権利に関する取組を進める際の参考とさせていただきます。 下水道施設の耐震化については、基本計画「上下水道」において、地震発生時にも上下水道の機能を確保できるよう、施設及び重要給水施設を結ぶ水道管路の耐震化を計画的に進めることとしています。指定避難所を含め、災害時に特に重要となる施設への対応については、施設の重要性、耐震化の状況、災害リスク、事業の緊急性等を総合的に勘案し、関連する個別計画や具体的な事業の中で検討します。 庁舎内の各課等の配置は、窓口の利用状況、相談者の利便性、個人情報や相談環境への配慮、各部署の連携、庁舎スペース等を踏まえて判断する個別・具体的な事項であるため、総合計画には配置を明記せず、今後の組織・庁舎運用の参考とさせていただきます。
No.19 **お幕場大池公園の老朽化した観察施設の再整備**により、子どもや高齢者が安心して白鳥を観察できる環境づくりと観光客の誘致を求める。	村上市松喜和にある お幕場大池公園の池を見学する為の木の階段や橋桁が壊れて白鳥さんを見ることが出来ません。 週末になるとお年寄りや小さい子供が見学しています。 瓢湖のきれいな橋桁や階段を再築して下さい。 毎年、一生懸命飛来してくる白鳥さんに感謝して小さな子供でも安心して見学できる、世界一の橋桁を造って下さい。 他県からもたくさん見学に来てもらえるような ぜひ、動物保護区第1位になるべく大池公園大改造計画をたてて下さい。	お幕場大池公園は、白鳥などの野鳥を観察できる場として、多くの皆様に親しまれている施設であると認識しています。 ご意見のありました園内施設については、本年度、その一部である木製デッキを修繕しました。今後も、利用者の安全を第一に、施設の状況を確認しながら順次修繕を計画してまいります。 また、第４次村上市総合計画の基本計画（案）における「観光」分野では、既存の観光施設について、適切な維持管理を行うとともに、利用者のニーズに応じた機能改善や設備更新を進めることとしています。今回いただいたご意見は、今後のお幕場大池公園の維持管理や整備を検討する際の参考とさせていただきます。

項目 等（要約）	パブリックコメント意見 ※提出された意見は、誤字・脱字、改行、句読点等を含め、原文のまま掲載しています。ただし、個人が特定される情報や、公表に適さない情報については、一部を削除または加工しています。	意見に対する市の対応方針
No.20 **村上駅西口・東西自由通路の早期整備**により、駅東西の分断を解消し、観光客の回遊性や高齢者の利便性向上、市街地の活性化	「村上駅西口」について ２０２６年現在ＪＲ東日本の新潟村上間にある特急列車停車駅で、線路を横断できる自由通路がないのは坂町駅と村上駅だけですが、自由通路設置により市街地の分断が解消された各駅が既存の市街地に及ぼした影響は下記の通りです 豊栄駅(南口・北口自由通路）→ 市街地の一体化と均等ある発展(北口土地区画性事業への推進力強化) 中条駅(東口・西口東西自由通路）→ 工業団地を始めとした西側への市街地拡大 新発田駅(西口・東口の都市構造への組込み）→ 駅前複合施設と東西市街地の一体化 共通して言えることは各駅が市街地の分断を解消したことで「駅の反対側」が単なる「駅裏」ではなくなり「人の回遊性」が生れたということです 村上駅の場合は元来「既存工場」の存在により、駅反対側の市街地開発そのものの概念が希薄であった感は否めませんが、村上駅「西口」のもつポテンシャルは「豊栄・新発・中条」の比ではありません 駅西口が徒歩圏域になることで生まれる主な影響は下記の通りです ・瀬波温泉やスケートパーク・岩船港といった西側の観光資産と町屋を始めとした既存の市街地観光資産を直接結び付けることで、観光客の回遊人口が生れ市内の商業圏域に多大な経済効果を生む ・西口へバリアフリーで移動できることで駅東側住民も高齢化に伴う病院や商業施設への移動が容易になる ・駅を通じた回遊性により市街地そのものが活性化し、現在進行中の駅前跡地再開発の相乗効果を更に高めることができる 国交省ではコンパクトシティーの例を推奨しておりますが、人口減少・高齢化に向き合わなければならない地方都市にとって若者の定住を促すためには都市そのものの推進力が何よりも必要です その為には様々な施策があると思いますが、少ない予算で市街地に活性化をもたらす施策としては「村上駅西口」は最速で整備する必要がある施策といえるでしょう 以上雑駁な意見ですが、市内に独居の親を持つ身としてこれからの街づくりの一助になれば幸いです。	村上駅周辺のまちづくりについては、駅周辺における人の回遊性を高めることが、中心市街地の活性化や観光振興、市民の生活利便性の向上につながる重要な視点であると考えています。 いただいたご意見を踏まえ、第４次総合計画の基本計画（案）における「市街地・景観」分野の「チャレンジ２　村上駅周辺まちづくりの推進」に、駅周辺の回遊性や生活利便性の向上を図る視点を追記しました。 駅東西を連絡する通路や駅東口及び西口の整備については、バリアフリー化や周辺施設へのアクセス、賑わい創出なども考慮しながら、関係機関との協議や整備効果などを踏まえ、事業実施に向けた検討を進めてまいります。 また、他駅の整備事例や早期整備に関するご提案についても、今後の検討に当たっての参考とさせていただきます。 **修正箇所**　計画に反映 基本計画(案)　基本目標２　まちづくり分野２-１０　市街地・景観 チャレンジ２　村上駅周辺まちづくりの推進 **駅周辺の回遊性や生活利便性の向上を図るため、**駅東西を連絡する通路や駅東口及び西口の整備は、事業実施に向けた検討を進めます。
No.21 **家庭の経済状況や情報格差に左右されない学びと国際交流の機会**を確保するため、給付型奨学金の創設や公的支援、情報提供の充実	学校教育の充実、およびグローバル人材育成・国際交流の推進に関する箇所について 【意見の内容】 2026年夏に娘が奈良で開催された「越境キャンプ」に申し込みし、200名以上の応募の中選ばれて参加いたしました。「地方に住んでいても、家庭の経済状況に関係なく学びの機会が与えられる」という素晴らしいコンセプトに共感しての参加でしたが、実際の現場では、過去に留学経験があるような裕福な家庭の子どもたちが多数を占めているという現実を娘は目の当たりにしました。そして娘1人参加させるのに準備費用など全て合わせると10万円ほどかかりました。これでは、意欲があっても費用や情報面が壁となり、挑戦を断念せざるを得ない地方の子どもたちとの間で、教育の二極化・格差が広がる一方であると強い危機感を抱いています。行政や市が主導・関与する国際交流・留学支援事業においては、理念だけに終わらせず、一般家庭でも過度な負担なく挑戦できるような「完全給付型の奨学金枠」の創設や公的補助の拡充を強く求めます。また、新潟県の参加者は娘1人だったそうです。家庭の「情報力や経済力」の差で子どもたちの未来が狭まらないよう、市内のすべての学校現場を通じて、こうした最先端の学びの機会を公平にアナウンスし、伴走支援する体制を整えていただきたいです。地方に生まれ育った子どもたちが、家庭の環境を理由に世界への挑戦を諦めることのない持続可能な計画となるよう、実効性のある予算配置をご検討ください。	現在も、中学生を対象とした英語検定の検定料の補助やＡＬＴの小・中学校への計画的な配置に取り組んでおり、今後もこのような取組を充実させることで、家庭の経済状況に関わらず、どの児童生徒でも世界に興味を持ち、学び続けられる環境をつくっていきたいと考えています。 多様な学びや国際交流等の機会につきましては、情報配信ツールであるテトルなどを活用して、市内の小・中学生の家庭に情報を配信するなど、今後も公平かつ積極的な情報提供に努めていきます。 要望されている国際交流の機会を確保するための『「完全給付型の奨学金枠」の創設や公的補助の拡充』については、ご意見として伺います。

項目 等（要約）	パブリックコメント意見 ※提出された意見は、誤字・脱字、改行、句読点等を含め、原文のまま掲載しています。ただし、個人が特定される情報や、公表に適さない情報については、一部を削除または加工しています。	意見に対する市の対応方針
No.22 基本構想の方向性に賛同。**世代間交流**や地域団体との連携による支え合いの仕組みづくり、安心して出産できる医療環境の整備と**若者のUターン促進**	基本構想（案）について つながりを軸として今後も世代を繋ぎ安心して暮らし続けられる村上市、どのようにやっていくべきなのか、今とても重要なことです。 今に適した計画・基本構想（案）と思います。 地域の実状や課題、今後のまちづくりについて 世の中の状況によって対応しながら、住民皆さんが笑い合って楽しく暮らし、支え助け合える地域にしたいですね！ それには、若者の協力とお年寄りの知恵を得ながら、子供～お年寄りが集える場所作りや他団体等の連携で支え合える仕組の作りが本当に大切と思います。 子育て等について 村上市に安心して出産できる病院が早くできるように又、今、村上から離れている若者（学生）も故郷に戻りたくなるような村上市に出来るように行政・市民・各団体等力を合わせていきたいですね！	人口減少や少子高齢化が進む中、世代を超えたつながりを大切にし、誰もが安心して暮らし続けられる地域づくりを進めることは、重要であると考えています。 第４次総合計画の基本構想（案）「１．将来像」では、将来像に「つながりと挑戦で、未来をつくるまち村上」を掲げ、人と人、世代や地域を超えたつながりを広げ、市民や地域団体、企業、行政などが連携・協力しながら、まちづくりを進めることとしています。 安心して出産できる環境づくりについては、基本計画（案）の「健康・医療」分野において、県や医療機関と連携した医師の確保や地域医療提供体制の維持に取り組むとともに、「子育て」分野では、妊産婦の健診や分娩に係る交通費・宿泊費の助成、産後ケア事業や相談支援など、妊娠から出産、子育てまで切れ目のない支援を進めることとしています。 さらに、若者が故郷に戻りたくなるまちづくりについては、基本計画（案）の「就労・雇用」分野において、市内企業の魅力発信や職場体験、企業と求職者のマッチング支援などを通じて、若者の地元定着やUターン就職の促進に取り組むこととしています。 今後も、地域の実情や社会情勢の変化を踏まえながら、市民や関係団体、行政などが互いに連携し、子どもから高齢者まで、誰もが安心して暮らし続けられるまちづくりを進めてまいります。
No.23 基本構想を評価し、**まちづくり協議会間の横の連携強化**や情報交換の充実を通じて、地域課題の解決に向けた協力体制の構築	第4次村上市総合計画　基本構想（案）　意見シート 　今回、企画戦略課作成の基本構想を読ませていただき、ありがとうございます。将来像、基本理念、基本目標をはじめ、土地利用構想などとても興味深く読ませていただきました。 　どこの自治体も人口減少を中心に様々な課題を抱えています。私たちの故郷村上市も同様です。村上市に居住する一市民として、この基本構想は指針として活かさなければと考えます。 【今後のまちづくりに対しての意見】 　私は、今荒川地区でまちづくり協議会の一員として活動しています。荒川地区の将来像を実態分析を通して設定し、その実現を目指して三つの部会を中心に活動しています。そして、点検～評価を加えて改善しています。村上市で予算付けをしていただいているので助かっています。この活動は、十年以上続き成果も現れてきています。 　さて、村上市には、このようなまちづくり協議会が１７あると聞きます。荒川地区は一つですが、旧神林、村上、朝日、山北はいくつも分かれています。それぞれが、地域課題解決に向けて取り組んでいるはずです。ただ、私を含めて、他の協議会の様子は、ほとんど分かりません。それは、これまで連絡協議会もなく、互いの情報交換もありませんでした。同じ村上市内でまちづくりに取り組む者として、このことは疑問でした。 　今回、総合計画基本構想に目を通し、強く感じるのは、それぞれの協議会が基本構想をどのように受け止め、どう改善を加えるかです。そして、大事になるのは、協議会の独自性とそれぞれの連携・協力についてです。「土地利用構想」や「基本目標」等を見ると、そのことを強く感じます。 　いくつか、お願いがあります。 ①市内のまちづくり協議会のメンバー（三役）等を対象に、基本構想説明会を開催していただきたいこと。そして意見集約を図っていただきたい。 ②村上市まちづくり連絡協議会を設立し、情報交換がスムーズに出来るようにしていただきたい。 いろいろとありますが、以上です。どうぞ、よろしくお願いします。	第４次総合計画については、これまで市民アンケートや各種ヒアリング、関係団体や市民の皆様に参画いただいた専門部会、総合計画審議会での議論などを重ねながら、策定を進めてきました。 また、今回のパブリックコメントでは、市内すべての地域まちづくり協議会に基本構想（案）を直接送付してご意見を伺い、多くのご意見をいただいたところです。このため、現段階で改めて説明会を開催して意見を集約することは予定していませんが、いただいたご意見を踏まえ、基本構想及び基本計画の内容を確認し、必要な修正を行っています。 なお、総合計画の推進に当たっては、各地域まちづくり協議会と基本構想の考え方を共有し、それぞれの地域の特性や課題に応じた活動につなげていくことが重要であると考えています。このため、策定後は、総合計画の内容を分かりやすく周知してまいります。 また、地域まちづくり協議会相互の情報交換や連携を促進するため、現在、連絡協議会の設立に向けた準備を進めています。

項目 等（要約）	パブリックコメント意見 ※提出された意見は、誤字・脱字、改行、句読点等を含め、原文のまま掲載しています。ただし、個人が特定される情報や、公表に適さない情報については、一部を削除または加工しています。	意見に対する市の対応方針
No.24 学力観の見直しと非認知能力の育成、**就学前の発達支援の充実**、多様な学びの場の確保と多職種専門チームの配置	本市の存立を支える「新たな学力観」への転換と、多様性を力とする教育施策への重点投資について 第４次村上市総合計画 基本構想（案）を拝読いたしました。将来像として掲げられた「つながりと挑戦で、未来をつくるまち村上」、および５つの基本目標に深く賛同いたします。その上で、本市が直面する「人口減少への適応」および「人づくり・担い手確保」を真に実現するため、学校教育と子育て支援の抜本的な方向転換について意見を提出いたします。 現在、進学や就職を機に学力上位層が都市部へ流出する構造は避けがたい現実です。決して学力テストの意義や、学力上位層の子どもたちの能力をさらに伸ばすこと自体を否定するものでは全くありません。しかし、テストの点数など「客観的な学力数値」を市の教育施策のメインの成果指標（目標の中心）に据え、他都市と競い合うようなアプローチは、不自然な知識の詰め込みや現場の教職員の無用な疲弊を招く懸念があります。将来、村上市の地域経済、社会インフラ、そして人や地域の「つながり」を根底から支え、この地に残って生きる中・下位層や特別な支援を要する子どもたちこそが、本市の未来を創るかけがえのない「担い手」です。 基本目標5「多様性が広がるまち」にも通じる、多様な子どもたちが地域でたくましく生き抜くための「根本的な学力観の見直し」を計画の中心に据え、以下の３点を最重要施策として強く要望いたします。 １．就学前からの「子育て・発達支援」への重点投資と要因分析（基本目標１の具現化） 新しい学力観（やり抜く力、協調性などの非認知能力）の基盤形成は、学齢期からのアプローチでは遅すぎます。文部科学省の調査では通常学級に在籍する発達に課題のある児童生徒は約８．８％とされています。 もちろん、本市における特別支援学級への在籍措置は、市の就学委員会が発達検査や医療機関の診断をもとに極めて適切に行っています。その適切な判断を経た上でなお、本市の在籍率が全国の実態を大きく上回っているという事実については、市として本格的にその要因を分析する必要があると考えます。 その上で、就学前の早期段階から、個々の特性に応じた切れ目ない療育・発達支援と保護者支援に対し、これまで以上に大きく予算と人的資源を投入すべきです。教育投資の費用対効果は幼児期が最も高く、早期の適切な支援こそが、小中学校での落ち着いた学びを保障し、将来の自立した担い手を育てる最強の投資となります。 ２．「学びの多様化学校（不登校特例校）」の早急な設置（基本目標5の具現化） 全国の不登校児童生徒数が過去最多を更新し、国も設置を推進する中、地方では多様な学びの選択肢が圧倒的に不足しています。既存のシステムに合わない子どもたちの中には、これからの時代に必要なポテンシャルを秘めた人材が多数存在します。彼らを型にはめるのではなく、「子どもに合わせた学校」を市として公式に用意することは、「誰一人取り残さず、すべての個性を本市の財産として生かす」という強力なメッセージになります。他自治体に先駆けて受け皿を整備することは、多様性を重視する子育て層の定住・移住を促進する呼び水にもなり得ます。 ３．学校教育を支える「多職種専門チーム」の市独自配置（基本目標４の具現化） 多様な子どもたちを受け入れ、真の「生きる力」を育むためには、教職員のみで心理・福祉・医療的ケアまでを抱え込む従来の学校体制では限界があり、現場の疲弊を加速させるだけです。 本市独自の施策として、家庭や福祉機関と連携する「スクールソーシャルワーカー」、心理的ケアを担う「臨床心理士」、感覚統合や身体的アプローチから学習基盤を整える「作業療法士」、読み書きやコミュニケーションのつまずきを支援する「言語聴覚士」などの専門職を市独自に配置し、学校内に多職種連携チームを構築することを提案します。都道府県からの限られた派遣回数では、日常的な課題解決には至りません。市独自の専門職が学校に常駐・巡回できる体制を整えることで、教職員は本来の「授業づくり」や「学級経営」に注力でき、結果として本市の教育の質的向上が図られます。 本市の実情を直視した「多様性を力とする教育」への転換こそが、持続可能な村上市をつくる最大の原動力になると確信しております。計画への確実な反映を強く要望いたします。	頂いたご意見の中で、『進学や就職を機に学力上位層が都市部へ流出する構造は避けがたい現実』『この地に残って生きる中・下位層や特別な支援を要する子どもたちこそが、本市の未来を創るかけがえない「担い手」』という箇所にお答えします。 市としては、学力上位層が都市部へ流出し、中・下位層や特別な支援を要する子どもが残ることを客観的に証明するデータは持ち合わせておりません。子どもたちの学力実態を正確に把握し、確かな学力を育成することで可能性と選択肢を広げ、すべての子どもたちに大切な未来の「担い手」になってもらいたいと願っています。そのためにも、客観的な学力を把握し、適切な学習支援を実施するためのNRTの実施は必要だと考えています。 また、『テストの点数など「客観的な学力数値」を市の教育施策のメインの成果指標(目標の中心)に据え、他都市と競い合うようなアプローチは、不自然な知識の詰め込みや現場の教職員の無用な疲弊を招く懸念があります。』という箇所にお答えします。 市ではNRTをはじめとした学力数値で他都市と競い合うようなアプローチはしておりません。そもそも市全体や各校のNRTの学力数値は公表しておらず、市としての取組や各校の学習指導の改善に役立てるために活用しているのが実情です。ただし、NRTのような客観的な学力数値とは別に、子どもたちの実態を評価するための成果指標は必要と考えます。現在、作成が進められている第４次村上市教育基本計画では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善により、児童生徒の学びの意欲が醸成されているかを評価するために、『全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙の質問項目「教科の勉強は好きですか」（国語と算数・数学の平均値）で肯定的回答をした児童生徒（小６、中３）の割合』を、成果指標として新たに盛り込みました。 頂いたご意見を踏まえ、下記の通り、総合計画にも成果指標として加えたいと思います。 **修正箇所** 計画に反映 基本計画(案)　基本目標４　まちづくり分野４-１　学校教育 将来の目標（成果指標） 将来の目標１　NRT偏差値平均　小６ 将来の目標２　NRT偏差値平均　中３ **将来の目標３　「教科の勉強は好き」と答えた児童生徒の割合** 将来の目標~~３~~４　不登校児童生徒の割合 将来の目標~~４~~５　年間時間外在校等時間が360時間以内の教職員の割合 続きまして、頂いた３点の要望について、回答いたします。 １点目の要望のうち、『文部科学省の調査では通常学級に在籍する発達に課題のある児童生徒は約8.8%とされています。』とありますが、今後も引き続き適正な就学支援となるよう努めてまいります。 ２点目、３点目の要望については、ご意見として伺います。

項目 等（要約）	パブリックコメント意見 ※提出された意見は、誤字・脱字、改行、句読点等を含め、原文のまま掲載しています。ただし、個人が特定される情報や、公表に適さない情報については、一部を削除または加工しています。	意見に対する市の対応方針
No.25 基本構想案における各項目の**文言修正**について	●意見　該当箇所　基本構想案　本文　基本目標１　□の中の地域福祉の項目　① 地域福祉の項目の内容について、次のように提案します。 「誰も孤立させないために、生涯にわたる途切れのない支援で安心して暮らせるまちを目指します。」 理由：「子育てができる」という限定ではない「孤立」の問題はあるので、心身の状況や世代社会課的立場を超えて孤立をさせないような福祉が求められると考えるので。 ●意見　該当箇所　基本構想案　本文　基本目標１　□の中の障がい者福祉の項目　② 「地域に参加」を「地域の活動に参加や参画」、とすることを提案します。 理由：「地域」というと、空間的・地理的な感じを受けるので、社会的参画のできるという観点で。 ●意見　該当箇所　基本構想案　本文　基本目標２　□の中の環境エネルギーの項目　③ 「脱炭素社会の実現により、豊かな生態系を保持した郷土を、次世代に引き継いでいきます。」という表現を提案します。「 理由：豊かな自然が保たれ、」ということのために、「脱炭素社会の実現」があると考えますので。 ●意見　該当箇所　基本構想案　基本目標２　□の中の生活環境の項目　④ 「循環型社会による、快適で」を、「生活による廃棄物の再資源化等で循環型社会を目指し、快適で」と、することを提案します。 理由：読んだときに、「循環型社会による」とは何の？と素朴に感じたので。 ●意見　該当箇所　基本構想案　基本目標３　□の中の商工業の項目他　⑤ 「デジタルと伝統が共生」という表現を、「デジタル技術を活かし、伝統技術も生かすことで」という表現を提案します。 理由：「デジタルと伝統が共生」というのは、どういう意味か直観的に理解できなかったので。	ご意見を踏まえ、各項目について次のとおり対応します。 **【①　地域福祉】** 地域福祉は、子育て世帯だけでなく、生活困窮、ひきこもり、複合的な課題を抱える世帯など、世代や社会的立場を問わず、支援を必要とする全ての人を対象とするものです。 ご意見のとおり、現行案の「安心して子育てができるまち」という表現では、地域福祉の対象が限定されて受け取られる可能性があることから、ご意見の趣旨を踏まえ、次のとおり修正します。あわせて、基本計画の該当箇所についても整合を図ります。 **修正箇所**　計画に反映 基本構想(案)　３．基本目標 基本目標１　子育てと健康のまち　地域福祉 誰も孤立せずみんなで助け合い、途切れのない支援で 安心して~~子育てができる~~**暮らせる**まちを目指します。 **【②　障がい者福祉】** 「地域に参加」には、地域社会の一員として社会活動やまちづくりなどに関わることも含めています。 また、基本計画では、障がいのある人が支援を受けるだけでなく、地域の一員として社会参加やまちづくりに関わることができるよう、参加機会の確保に努めることを具体的に記載しています。 このため、ご意見の趣旨は基本構想及び基本計画に含まれていることから、原案どおりとします。 **【③　環境・エネルギー】** ご意見のとおり、美しい郷土を次世代へ引き継ぐためには、脱炭素社会の実現だけでなく、豊かな自然や生態系を保全する視点を明確にすることが重要であると考えます。 ご意見の趣旨を踏まえ、自然・生態系の保全と脱炭素化をともに進めることが伝わるよう、次のとおり修正します。あわせて、基本計画の該当箇所についても整合を図ります。 **修正箇所**　計画に反映 基本構想(案)　３．基本目標 基本目標２　豊かで安心なまち　環境･エネルギー 豊かな自然~~が保たれ~~**や生態系を保全するとともに**、脱炭素社会の実現~~により~~**を図り**、 美しい郷土を次世代に引き継いでいきます。 **【④　生活衛生】** 「循環型社会」とは、ごみの発生抑制、再使用、再資源化及び適正処理を進め、資源を有効に循環させる社会を表しています。 その具体的な取組については、基本計画において、ごみの減量化、リサイクル率の向上、一般廃棄物の適正処理などを記載しています。基本構想では、これらを包括する簡潔な表現としていることから、原案どおりとします。 **【⑤　商工業】** 「デジタルと伝統が共生」とは、生成AI、IoT、SNS、EC等のデジタル技術を活用して生産性向上や販路拡大を進める一方で、村上木彫堆朱や羽越しな布などの伝統産業の技術、原材料、文化的価値を守り、次世代へ継承していく考え方を表しています。 具体的な取組は基本計画において、先端技術を活用した新製品開発、デジタルマーケティング、伝統的工芸品の商品開発、技術継承、原材料の確保等として記載しています。 基本構想では、これらの方向性を端的に示す表現としていることから、原案どおりとします。

項目 等（要約）	パブリックコメント意見 ※提出された意見は、誤字・脱字、改行、句読点等を含め、原文のまま掲載しています。ただし、個人が特定される情報や、公表に適さない情報については、一部を削除または加工しています。	意見に対する市の対応方針
	●意見　該当箇所　基本構想案　基本目標４　□の中の学校教育の項目　⑥ 「学校教育の充実した」を「学習施設・設備や人的支援の充実した」という表現を提案します。 理由：教育のどのような面を充実させるのかを具体的に考えられるために。 ●意見　該当箇所　基本構想案　基本目標５　□の中の「デジタル」の項目　⑦ 「スマートむらかみ」とどういう事を言うのか、説明が必要ではないかと考えます。 理由：「スマートむらかみ」という表現の意味が、検め考えると、どういう事なのか理解し難いと感じたので。 関連して、基本構想案の本文全体の中で、「デジタル」という単語で文節する箇所がいくつかありますが、 「デジタル技術」という表現にした方が良いのではと考えます。　⑧	**【⑥　学校教育】** 学校教育の充実には、学習施設・設備や人的支援だけでなく、確かな学力の育成、豊かな心と健やかな体づくり、不登校やいじめへの対応、特別支援教育、地域と連携した教育、教職員の働き方改革など、幅広い取組が含まれます。 これらの具体的な内容は基本計画に記載しており、基本構想では学校教育全体を包括する表現としていることから、原案どおりとします。 **【⑦　「スマートむらかみ」】** ご意見のとおり、「スマートむらかみ」という表現だけでは、具体的にどのようなまちを示すのか分かりにくい面があると考えます。 このため、本文は原案どおりとし、用語の意味が分かりやすく伝わるよう、注釈を追加します。 **修正箇所**　計画に反映 基本構想(案)　３．基本目標 基本目標５　多様性が広がるまち　デジタル 第４次村上市総合計画の基本構想（案）「３．基本目標」の「基本目標５　多様性が広がるまち」の下部に、**「※『スマートむらかみ』とは、デジタル技術を活用して行政サービスや市民生活の利便性を高め、誰もが安心・安全で快適に暮らせるまちを目指すものです。」**との注釈を追加 **【⑧　基本構想での「デジタル」の表記】** 「デジタル」は、文脈によってデジタル技術、デジタル化、デジタルサービスなど、意味する内容が異なります。 このため、全てを一律に「デジタル技術」へ置き換えるのではなく、まちづくりの方向性を簡潔に示す表現は原案どおりとし、具体的な内容を説明する箇所については、ご意見を踏まえ、より分かりやすい表現に修正しました。 **修正箇所**　計画に反映 基本構想(案)　３．基本目標 基本構想(案)　４．土地利用構想 まちの未来の構想図　山間部集落の説明 公共交通やデジタル**技術**などを活用し、市内のどこに住んでいても、・・・ 基本構想(案)　４．土地利用構想 土地利用を支える考え方 デジタル**技術**の活用 情報通信基盤やデジタル技術を活用し、・・・ 基本構想(案)　４．土地利用構想 生活ネットワーク 公共交通やデジタル**技術**を活用して地域間のつながりを確保し、市内のどこに住んでいても・・・

項目 等（要約）	パブリックコメント意見 ※提出された意見は、誤字・脱字、改行、句読点等を含め、原文のまま掲載しています。ただし、個人が特定される情報や、公表に適さない情報については、一部を削除または加工しています。	意見に対する市の対応方針
No.26 **学校統合後の施設・跡地の有効活用**や移住定住の促進、公共施設の管理負担軽減、**駅周辺整備や公共施設の機能改善**	基本構想（案）について 土地利用構想において保育園、小学校、中学校の統合による建物・跡地の利用構想を計画において具体的に示していただきたい。 旧朝日村において「あけぼの団地」造成において若い世代の定住につながった例がありますが、学校等の土地を宅地化し、市内外の移住定住につながる思いきった施策を求めたい。未利用の市の土地、建物は民間に売却する等をして市の維持・管理負担を減らし市の持続可能な財政運営計画を打ち出していただきたい。 地域の実状や課題、今後のまちづくりについて ①小学校、中学校の統合にあたり、給食設備、体育館は残し、地域の利用、避難施設としての機能を残していただきたい。そのためには駐車スペースの確保、冷暖房の設置は不可欠と思います。 ②駅前開発の中で村上病院の跡地利用が進められていますが、その後、松山トンネル先の道路の瀬波までの延伸、村上駅の東西高架橋の建設、西側ターミナルの開発も今後の計画に盛り込んでいただきたい。 【裏面】 ①三ノ丸会館に冷暖房設備を設置していただきたい。展示会や地域の利用を高めるために必要と思います。 ②中川原団地の建て替えに大きな予算を投入しようとしていますが１８億という庶民感覚からすれば理解に苦しむところです。建築場所の選定、建築方法も含めて再考できないものでしょか。 ③指導（特に市内中心部）の街路樹の管理、除草清掃計画の年次計画を明らかにしていただきたい。	第４次村上市総合計画の基本構想では、人口減少や地域の実情を踏まえ、「集約」と「生活維持」の両立を基本として、地域の特性や生活圏に応じた機能の配置と、市域全体の暮らしを支える土地利用を進めることとしています。 保育園や学校の統合後の建物・跡地については、地域の実情や施設の状態、周辺の土地利用、市民ニーズ、財政負担などを踏まえ、宅地化や民間活用、売却、地域利用、防災機能の確保など、様々な可能性を検討する必要があると考えています。具体的な活用方法については、総合計画で一律に定めるのではなく、個々の施設について地域の皆様のご意見を伺いながら検討してまいります。 また、基本計画では、学校の適正規模や施設の維持・改修について地域を交えて協議することや、公共施設の適正化と維持管理費の縮減を進めるとともに、遊休・未利用となった市有財産について、売却や貸付けなどによる有効活用を進めることとしています。学校統合後の給食設備や体育館の利用、避難施設としての機能、駐車場や空調設備についても、施設の状態や地域のニーズ、維持管理費用などを踏まえ、個別に検討してまいります。 村上駅周辺については、基本計画の政策分野「市街地・景観」において、大規模跡地における官民連携による施設整備やにぎわいの創出、駅東西を連絡する通路及び駅東西口の整備について、事業実施に向けた検討を進めることとしています。 道路の延伸については、交通需要や周辺の土地利用、事業効果、財政負担などを踏まえ、関係機関と調整しながら検討すべきものと考えています。 三ノ丸会館の冷暖房設備については、施設の利用状況や設備の必要性、整備費及び維持管理費などを踏まえ、施設整備を検討する際の参考とさせていただきます。 市営中川原住宅の建替えについては、基本計画の政策分野「住環境」において、公営住宅の適切なストック管理を進めるとともに、バリアフリー化や子育て世帯向け住宅の充実を図ることとしています。 建設場所や整備手法については、これまでの議論を踏まえて決定したものであることから、事業の実施に当たっては、現在の計画に基づき着実に進めてまいります。 市道の街路樹管理、除草及び清掃については、基本計画の政策分野「道路」において、景観形成と維持管理コストのバランスを図りながら、道路施設の適切な維持管理について研究を進めることとしています。 具体的な実施箇所や時期については、道路の状況、交通への影響、緊急性などを踏まえて対応してまいります。 いただいたご意見のうち、個別施設の活用方法や設備整備、個別路線の整備、維持管理の年次計画などについては、総合計画に具体的に定めるのではなく、今後、それぞれの個別計画や事業を検討する際の参考とさせていただきます。